



～アンラシネを目指します～

第43号 2020年1月20日発行

本号では、当所の新しい副館長に  
なられた「佐瀬 界平さん」に  
よる挨拶からお送りします。

その他、コンサート選送、  
クリスマスコンサートのレポートや、  
にし研修報告、そしてお馴染み  
「もやもや日記」もお楽しみに！  
今年も「広報誌にし」のご一読を  
頂けましたら、幸いと存じます。



## 新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

と、挨拶をさせては頂きましたが、わたくし佐瀬がこのエヌ・クラブの所長に着任したのが  
昨年2019年11月ですので、はじめましての方が多いのかもしれません。  
ですので、この紙面を借りて、少し自己紹介をさせて頂ければと思います。

私、佐瀬 界平は社会福祉法人 県央福祉会に2008年に入社して最初の1年間は  
藤沢市にある事業所の小さな分場でパン作りを行いながら支援員をしておりました。  
その前は飲食業で調理の仕事をしていたので、ここからが福祉業界の経歴になります。

翌年の2009年4月からエヌ・クラブの立ち上げメンバーとして異動となり、  
そこから5年間製パン室担当として勤務しました。

その後、法人内の他事業所で所長業務を経験し、約6年ぶりにエヌ・クラブに戻ってきました。

つい硬めの文章になりがちなので、少しプライベートなことも交えます。

現在、小学5年生の男の子の父親でもあり、彼が中学受験をするということを自分から言い出したので、経済的にはかなり厳しいのですが、我が家では受験を全面的にバックアップしていこうという感じになっています。ただ、当人はポケモンに夢中で、ポケモンが出来る事を条件に勉強をしているような感じではありません。

ちなみに趣味はキャンプや山登りなどアウトドア系のことが好きですが、あまり行けないので芸人のヒロシのキャンプ動画などを見て気を紛らわしています。

昔の記憶を辿りながら、この二ヶ月間、何とかこの生活創造空間にし、エヌ・クラブの業務に勤しんで参りましたが、昔と変わったこと、変わっていないこと、変わって欲しくないのに変わってしまったこと等もありました。大切なものまで変わってってしまうような、何か大きな時代の流れも感じる昨今であり、世界経済で2020年代はVUCA（変動・不確実・複雑・曖昧）と表現されるそうです。

そんな時代ではありますが、社会福祉という仕事をしている以上、変わってはいけないことはあるはずですが、そんなことを意識しながら、良い方向に“変動”していければと思っています。

とりあえず私は、健康のためにも痩せます！

生活創造空間にし 副館長 兼 エヌ・クラブ 所長

佐瀬 界平

# カテリーナの音楽の世界

ウクライナの民族楽器「バンドウーラ」の音色と神秘的なカテリーナさんの歌声に、「生活創造空間にし」の夜が彩られたあの日…。ご来場された皆様はそれぞれに、唄を、曲を、お話を、空気感を想い想いに感じられていたと存じます。

「バンドウーラ」の音色は、“物悲しさ”が私の第一印象でした。しかし、カテリーナさんご自身のお話から、この楽器で表現されている楽曲達は、感じた”物悲しさ”とは全く異なる様々な表情や物語を秘めている内容が多くありました。逆に、アップテンポで楽し気な曲ではあるけど、歌詞は男性の失恋が女性目線で少しシビアに語られる歌もあったとのことでした。その為、「バンドウーラ」は、いろんな感情の表現が出来る楽器でもあるのかもしれない、と印象が変わりました。「だから色んなジャンルの曲のアレンジをたくさんされて、カテリーナさんの、ウクライナの『音楽の世界』を、皆様に届けて下さっているのかなあ」と、そんな風にも思います。正に邂逅…。

月一回程の頻度で、カテリーナさんもランチタイムコンサートに出演して下さいます。こちらも是非聴きに來てくださいね。(古田中)

2019年12月14日土曜日

生活創造空間  
にし  
NISHI

## ワンダフル☆クリスマスコンサート

毎年恒例の楽しい楽しいおもちゃのはこのワンダフルクリスマスコンサート。  
今年のクリスマスもとっても賑やかな催しとなりましたが、みなさんはいかがでしたでしょうか？  
この日は素晴らしいくらいの大快晴。(おもちゃのはこの斎藤みどりさんは晴れ女なのだとか！)



会場の準備中から復興支援市の商品もたくさんお買い上げ頂きました。  
シャララカフェの「クリスマス限定メニュー」は6食限定としていたところ、  
限定を突破し、9食の提供があったそうです。ありがとうございました♪



みんなの節供のコンサートでもお馴染みかと思いますが、  
ピアノ、ピアノカ、鈴、打楽器等、色んな楽器の演奏や連弾、  
澄み渡るようなオペラのボーカルの響き、暖かみのあるイラストによる  
ビジュアルアート、そして、心がほっと落ち着く優しいナレーション…  
これらがたくさん詰まって、会場全体がやわらかく包み込まれていくのが  
おもちゃのはこのコンサートならではの、と感じています。(古田中)



## 第3回『障がいのある方の「働く」を考える』

令和元年 10月17日(木) 18時~20時 参加者…32名

今年度3回目のにし生活創造空間にし研修は10月17日(木)に行いました。横浜市中部就労支援センターの芝野センター長をお招きし、障がい者雇用の仕組みから、そもそも私たちも何のために働いているのかという原点に返って見つめ直し、講義とグループワークの2本立ての研修となりました。参加者も30名以上と、沢山の方々にご参加頂きました。実際にご参加いただいた皆様からの感想として



- ・ 障がいを持っている方が働くことについて特別なことなのかという問いかけに関しては、仕事を続けていくうえでも忘れてはいけない感覚であると思った。
- ・ 障がい当事者の方が働くことで抱く思いと私たちのそれには大して変わりがないということを改めて知ることができました。
- ・ 就業先での配慮が足りない、接し方がわからないことは、生活の中で障がい者に接する機会が極めて少ないからであると強く感じました。
- ・ 行きつ戻りつで、常にいい感じの自分であることは難しいです。
- ・ コミュニケーション力は障がい者にばかり求められるが、職場の方のコミュニケーション力も同時に問われているのではないのでしょうか。
- ・ 障がい者の養護学校卒業後の進路の選択の幅が極めて少ないことを改めて感じました。大学や専門学校などフラフラできる時間も必要だと感じます。
- ・ 共生社会の実現、労働力の確保、生産性の向上・・・まさしく敢えて言葉にしなくてもよい社会になればよいと思いました。

ここには載せきれませんが、様々なご意見、ご感想を頂きました。障がいのある方の働く事は、たくさんの配慮が必要で、特別な何かを必要とされるのではないかという考えを持たれていることも多く感じます。今回の研修で皆様も感じられたように、障がいの有無によって働く意義や動機は大きな違いはなく、むしろどのように接したらよいか分からない、接する機会が少ないことにより社会がハードルを著しく上げてしまっている面も多分にあることを考えさせられたように思います。いい感じの自分であるために、多様性とは何か、改めて考えさせられる機会になったのではないかと感じます。

## 西区四志会研修報告

## 第1回 西区四志会研修『生きづらさを打破するために』

令和元年 11月20日(水) 17時30分~19時 参加者…89名

西区の精神保健福祉を考える支援者(西区四志会)主催により、藤田 孝典氏(NPO 法人ほっとプラス)をお招きし、「生きづらさ」を打破するために”をテーマに研修が開催された。

前半は藤田氏によるホームレスや貧困率、ひきこもりや労働環境について、その問題や精神疾患との関連をデータと共に直接支援の中で見てきた現状についての話があり、後半では加藤 伸輔氏(ピアサポート在)の進行のもと、武田 容子氏(民生委員)、渡辺 幹夫氏(ガッツビーと西)を交えシンポジウム形式で地域の現状と合わせながら話しが進められた。ここでは障害が生きづらさに繋がることもあれば、生きづらい社会が障害を生んでいるという側面もあり、個人の問題として捉えるのではなく社会全体の問題としてみんなで考えていくことの大切さについて言及されていた。私達支援者は対象者と直接関わり病状の安定と共に個人の個性や強みを活かしながら、より良い生活や豊かな人生に向けて支援を行う。そこでは対象者を取り巻く社会などの環境因子を考えていくが、対象者と直接関わる支援者は既存の制度や社会を適用するに留まり社会を変えていく働きかけをすることは少ないのが現状であろう。問題が大きく表面化した際に国は対策を講じるが、その下には表面化していないが個人にとっては生きづらさとなっている課題が沢山あり私達はそれらに直面することがある。その要因は現在の社会だけでなく、生まれてから現在に至るまでの家庭から教育・職場においての人的環境や社会の影響も考えられる。支援者はそれを社会に反映できる可能性を持っているのだが方法が明確ではない。自分がまず出来ることは何かを考えた時、対象者の生きづらさに直面した際に「感じた事」「考えた事」を自分の中で明確にしながらいかに良いのかを考え、それを誰かと語り表出していくことではないかと思う。

自分が出来ることから少しずつでも生きづらさの少ない社会を作っていきたい。共生社会の実現、労働力の確保、生産性の向上・・・まさしく敢えて言葉にしなくてもよい社会になればよいと思いました。

(就労継続支援 B型 NEXT STAGE 加藤 祐)

日時	行事	場所	備考
4日(火) 18:00~20:00	<b>あらためて「意思決定支援」を考える！</b> ＜講師＞高山 直樹氏（東洋大学社会学部教授） 相談を受ける我々は、どんな風に日頃、相談をうけているだろうか。そして相談発信する方々へどんな「意思決定」支援をしているだろうか。あらためて、そのことを皆で考えたい。	生活創造空間にし 5F 食堂 [浜松町14-40]	＜問合せ＞ ガッツ・びーと西（渡辺） ☎：250-6506 [主催]西区みんなの相談窓口 [共催]西区地域自立支援協議会
14日(金) 18:00~20:00	生活創造空間にし研修 「働く!!暮らす!!を考える」 <b>第4回「働く!暮らす!について語ろう!!」</b> ＜講師＞西区在住・在学・在勤の障がい当事者の方々 西区内の事業所で関わっている障がい当事者の方々に、「働くこと」「暮らすこと」について、大いに語っていただきます。この言葉をヒントに、これから横浜市西区で取り組むべきことについて、みんなで考えます。	生活創造空間にし 5F 食堂 [浜松町14-40]	＜問合せ＞ 生活創造空間にし研修委員 （森(博)・村田・阿部） ☎：250-6506
15日(土) 14:00~15:00	<b>Triangle コンサート</b> クラシックからポピュラー曲まで私達と楽しく素敵な時間を一緒にいかがですか？	生活創造空間にし 1F エントランス [浜松町14-40]	入場無料 ＜問合せ＞ 生活創造空間にし ☎：250-6506
21日(金) 開場 17:45 開演 18:00	コンサート邂逅Vol.26 <b>「心をいやす歌とピアノのハーモニー 橋本芳美」</b> 現在は、弾き語り演奏、合唱の伴奏、BGM演奏などの活動をしている。エドグラン、グランデュオなどの商業施設でのイベントにボーカルとして参加や、県会議員の新春の集いゲストとして演奏。コンサート邂逅では初出演。	生活創造空間にし [浜松町14-40]	入場料：500円 フリードリンク ＜問合せ＞ 生活創造空間にし ☎：250-6506
29日(土) 開場 12:30 終演 15:00	<b>にぎわい&amp;にしよこ寄席 其の十六</b> 今回で16回目となる「にぎわい&にしよこ寄席」。 現在、嘶家さんが確定しておりませんが、公演を予定しております。 続報、お待ちください☆	生活創造空間にし [浜松町14-40]	入場料：500円 フリードリンク ＜問合せ＞ 生活創造空間にし ☎：250-6506



日時	行事	場所	備考
14日(土) 13:30~16:00	生活創造空間にし研修 「働く!!暮らす!!を考える」 <b>第5回 映画「道草」上映会</b> ＜概要＞暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。タンポポの綿毛をとばし、ブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わりなくなることでは私たちが縮む。だから人はまた、人に近づいていく。	生活創造空間にし 5F 食堂 [浜松町14-40]	＜問合せ＞ 生活創造空間にし研修委員 （森(博)・村田・阿部） ☎：250-6506

## 男もや田のもやもや日記

新年あけましておめでとうございます。  
2020年も宜しくお願いいたします。

今回は、他の人がモヤモヤした事をお話しさせていただきます。

我が家の年始はいつも親族で集まるのですが、  
親戚の中で日本語ボランティアとして外国の方と交流をしている人がいます。

その方が、日本の新年の過ごし方について色々お話ししていた中で、  
外国の方から、日本のお餅を食べる習慣について  
どうしても理解できないということだったようです。

毎年、お餅を喉に詰まらせる事故が発生しているのに、  
なぜそれほど危険な食べ物を毎年食べ続けるのか、  
なぜ他に替わる食材に変更しないのか、  
ということが非常にモヤモヤするとのことでした。

文化が違えば色々モヤモヤしたり、理解が難しいこともあると思いますが、  
当たり前の習慣が見る方によっては、  
この様に捉えられているのだと知る新鮮な機会でした。